

## 第7次中期経営計画

(2018~2020年度)

~すべてのステークホルダーにとって 魅力あるケミカル・カンパニーの実現~

> 2018年6月 石原産業(株)

### 注意事項



・将来見通しに関わる記述についての注意事項 このプレゼンテーション資料には、公表時点での将来に関する 前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。日本及び 海外の経済情勢・需要動向・競合状況・為替の変動等に関わる リスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と大幅に 異なる可能性があることをご承知おきください。

・本説明資料における表示方法

数値:表示単位未満を切り捨て

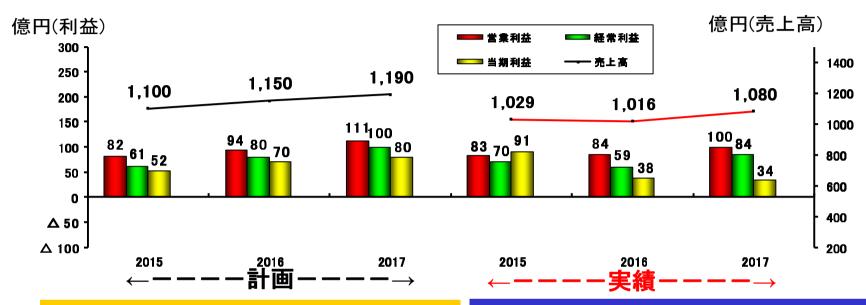
比率:百万円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入



## I. 第6次中期経営計画(15/17)の振り返り

### 計画と実績との対比





#### 成果

#### (無機事業)

- ·営業利益率 13%達成(FY2017)
- ·電子部品材料、導電材料 の販売伸長

### 残された課題

#### (無機事業)

- · 高機能· 高付加価値顔料銘柄の 販売比率の向上
- ・新規商材の立ち上げ、育成

#### (有機事業)

- ・新規農薬4剤主要市場での上市
- ・農薬原体コスト削減に伴う利益率改善
- 新規事業/事業開発の進展

#### (有機事業)

- ・農薬/新興地域での販売計画の未達
- ・研究開発費の負担増大による

利益率低下

## 計画と実績との対比



(金額:億円)

	前中計	実績	差異		
売 上 高	3,440	3,125	△314		
(有機化学部門)	(1,646)	(1,510)	(∆135)		
(酸化チタン及び無機)	(1,310)	(1,185)	( <b>△124</b> )		
(機能材料)	(384)	(332)	(△51)		
営業利益	287	267	△19		
(有機化学部門)	(213)	(128)	(△84)		
(酸化チタン及び無機)	(22)	(61)	(38)		
(機能材料)	(41)	(65)	(24)		
経常利益	241	213	△27		
当期純利益	202	163	△38		
為替レート(期中平均)	115.0	106.7	△ 8.3		
(上段¥/U\$、下段¥/EURO)	130.0	135.1	5.1		



## II. 第7次中期経営計画 経営目標·方針

### 事業ビジョン



### 無機化学事業

タイペーク(TIPAQUE)等ブランドを支える技術力を 進化させ、付加価値の高い製品をマーケットに供給 することにより、豊かな社会の実現に貢献する。

### 有機化学事業

安全性に優れ、効果の高い農薬を継続的に開発・供給、世界の食糧需要増と環境に貢献する。

### 中期経営計画の全体概念図





強くて、信頼されるケミカル・カンパニーとしてのブランドカのある会社

#### <目指すべき企業グループ像>

<第7次中期経営計画の基本方針>

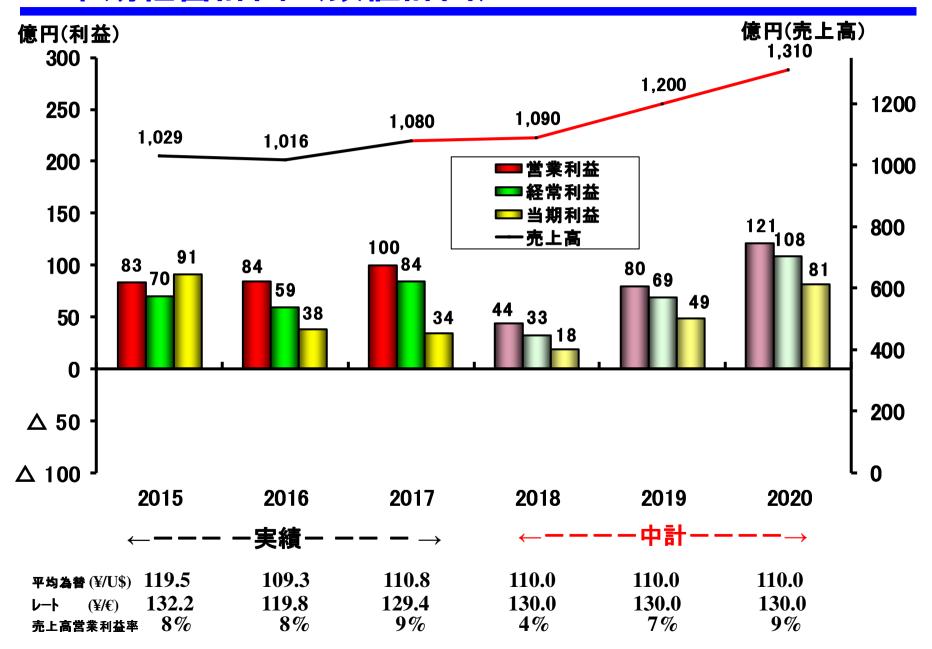
すべてのステークホルダーにとって

魅力あるケミカル・カンパニーの実現

地域社会 株主 従業員 顧客・取引先 無機化学事業 有機化学事業 攻めの取り組み く酸化チタン事業> くバイオサイエンス事業> ◆高機能・高付加価値な ◆海外販売の強化 戦略製品の拡販 ◆新規剤の普及と販売拡大 成長の加速 く機能材料事業> <事業領域拡大に向けた新規事業開発> ◆電子部品材料と導電材料を核に ◆アニマルヘルス事業 売上成長の加速 ~新たな収益の柱の育成 成長機会 ◆ライフサイエンス事業 ~ISK技術を诵じて医薬・医療分野 の獲得 での貢献を目指す 期間利益の着実な積み上げにより 守りの取り組み 株主資本の充実を進める 既存ビジネス く酸化チタン事業> の維持・強化 ◆国内トップシェアと技術力の徹底維持 くバイオサイエンス事業> ◆競争力追求による既存剤の価値最大化 収益力 く酸化チタン・機能材料> ~製品のラインアップ強化と適用拡大 の安定化 ◆持続的競争優位な生産基盤の構築 ∼競争力と利益を生み出すコスト構造の強化 ~世界各国での確実な農薬登録の取得・維持 コンプライアンス遵守の徹底 経営の透明性の確保

## **ISK**

### 中期経営計画(数値計画)



## 経営指標(2017~2020年度)



	実績	中期計画		
	2017	2018	2019	2020
1株当り当期純利益(円)	86.1	45.0	122.5	203.6
純資産残高(億円)	671	689	738	820
有利子負債残高(億円)	513	479	480	526
自己資本利益率(ROE)	5%	3%	7%	10%
総資本経常利益率(ROA)	5%	2%	4%	6%
売上高営業利益率	9%	4%	7%	9%
自己資本比率	42%	44%	45%	47%
借入金依存度	32%	31%	30%	30%
連単倍率(当期純利益)	1.1	1.6	1.4	1.3



## III. 事 業 方 針 · 戦 略

## 事業方針:無機事業



#### 外部環境

- ・酸化チタン・汎用品の海外市況高
  - ~中国の環境規制強化と海外大手 の生産トラブルにより需給逼迫
- ・主原料チタン鉱石価格の騰勢強まる
- -機能材料
  - ~電子部品材料や導電材料の 堅調な需要

#### 直面する課題

#### (酸化チタン事業)

- ・高機能・高付加価値顔料銘柄の 販売比率の引き上げ
- ・原材料コストアップに対応できる コスト構造の確立

#### (機能材料事業)

・需要家からの増量要請に応える 供給体制の確保

### 本中計期間の事業方針

オンリーワンの素材による顧客への真の価値提供と持続的な収益拡大

## 事業方針:酸化チタン事業



### 主要な取り組み

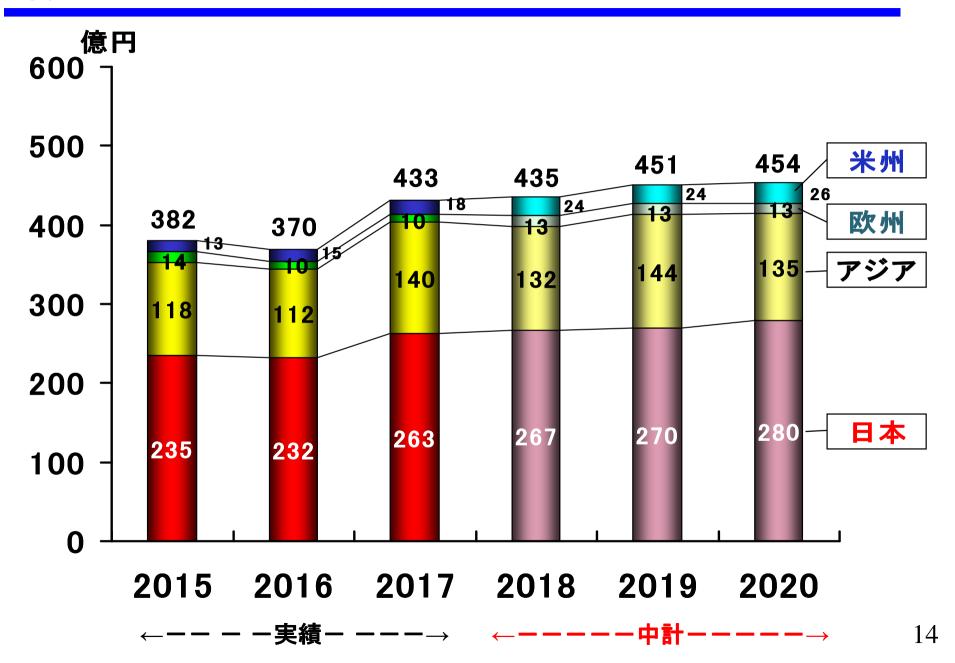
守りの取り組み 収益力の安定化 <u>攻めの取り組み</u> 成長の加速と成長機会の獲得

- 国内トップのシェアと技術力の徹底維持
- 持続的競争優位な生産基盤の構築

· 高機能・高付加価値 顔料銘柄の拡販

### 酸化チタン: 地域別販売計画





## 事業方針:機能材料事業



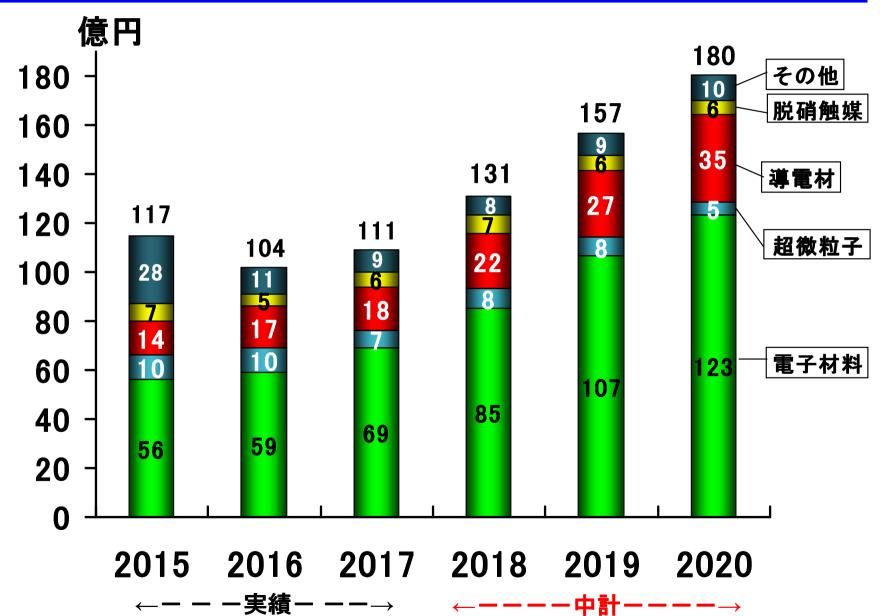
### 主要な取り組み

### <u>攻めの取り組み</u> 成長の加速と新たな成長機会の獲得

- •電子部品材料と導電材料を核に売上成長の加速
- •時代を先読みした新規商材の創出

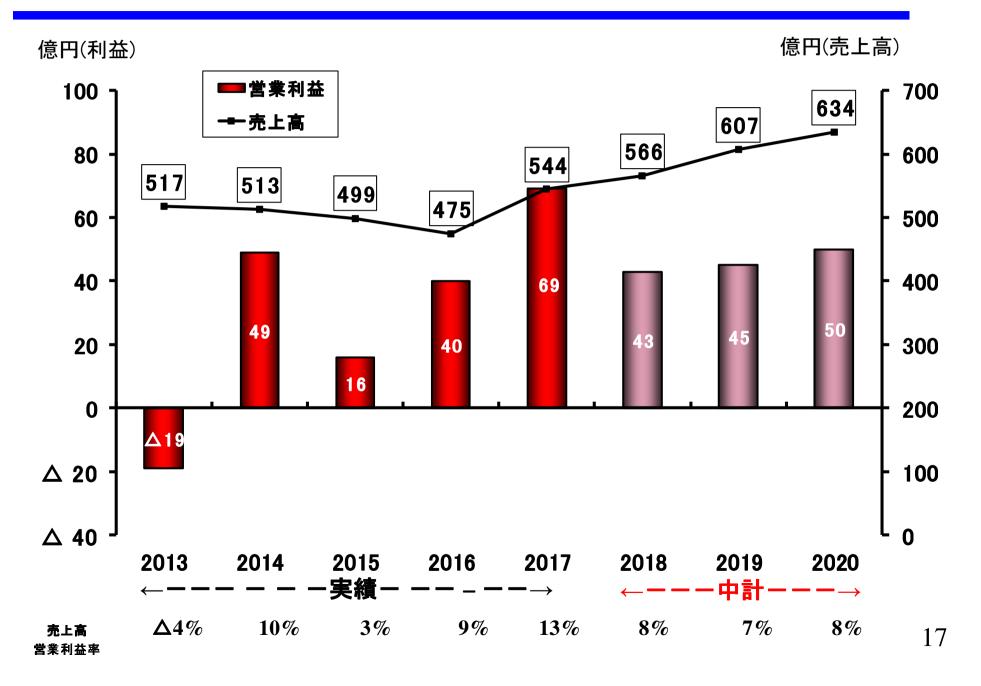
### 機能材料:分野別販売計画





## 無機化学:業績計画





## 事業方針:有機化学事業



#### 外部環境

- -マイナス成長が続く世界の農薬市場
  - ~農業大国ブラジルの需要減退、 農作物の価格低迷
- 国内外で事業環境の大きな変化
  - ~海外大手の再編活発化
  - ~世界的な農薬規制の強化
    - ⇒創製から開発・上市の難度の上昇
  - ~国内・農業改革に向けた取り組み
    - ⇒将来ジェネリック農薬と

本格的な競争時代が到来の懸念

#### 直面する課題

- -農薬売上高の停滞
  - ~成長市場の需要の取り込み
- 研究開発費負担の増大
  - ~登録申請で要求される試験 データ数の増加と複雑化
  - ~新規事業(動物薬、バイオ医薬品)開発 進展に伴う研開費の増加

#### 本中計期間の事業方針

### R&D型事業として持続可能な事業規模と収益力の実現

~ グローバルシェア向上を通じて世界の農薬マーケットで認められる 真のグローバル企業の実現に向けての布石を着実に打つ ~

## 事業方針:有機化学事業



### 主要な取り組み

守りの取り組み 収益力の安定化 <u>攻めの取り組み</u> 成長の加速と成長機会の獲得

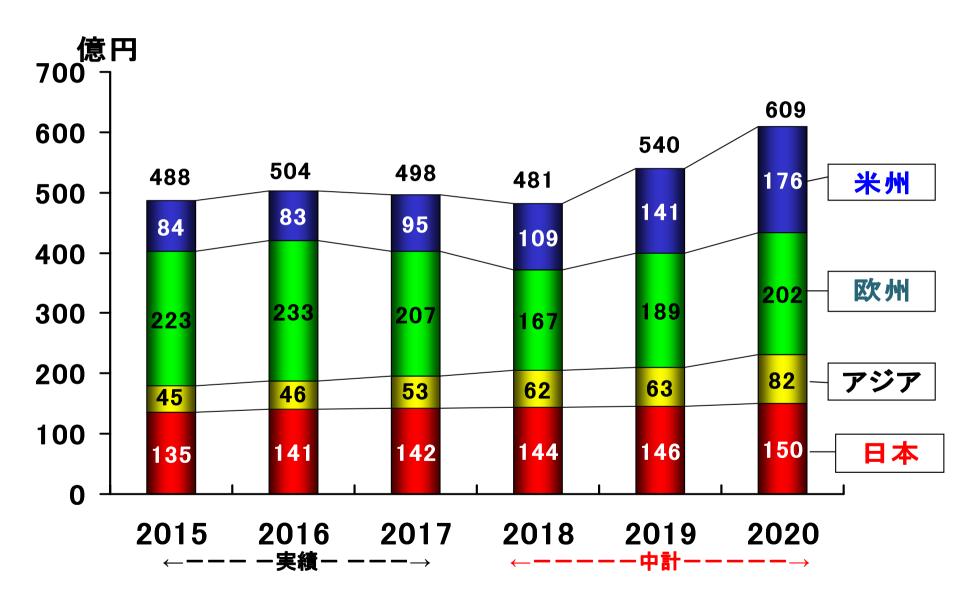
(農薬)・競争力追求による 既存剤の価値最大化

- ~製品ラインアップ強化と適用拡大
- ~競争力と利益を生み出す コスト構造の強化

(農薬)・海外販売の強化
・新規剤の普及と販売拡大
(新規事業)・動物薬、バイオ
医薬等の取り組み加速

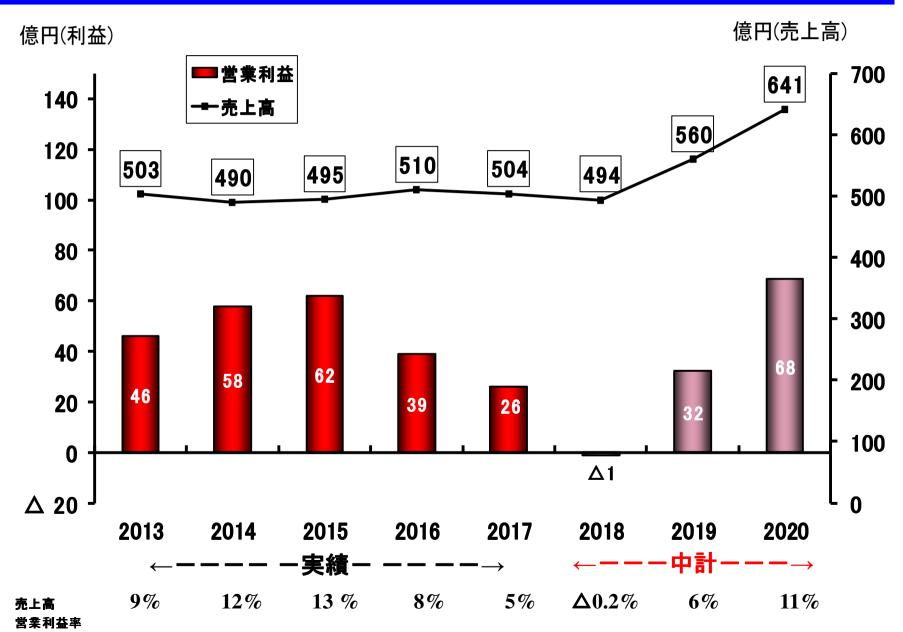
### 農薬:地域別販売計画





## 有機化学:業績計画



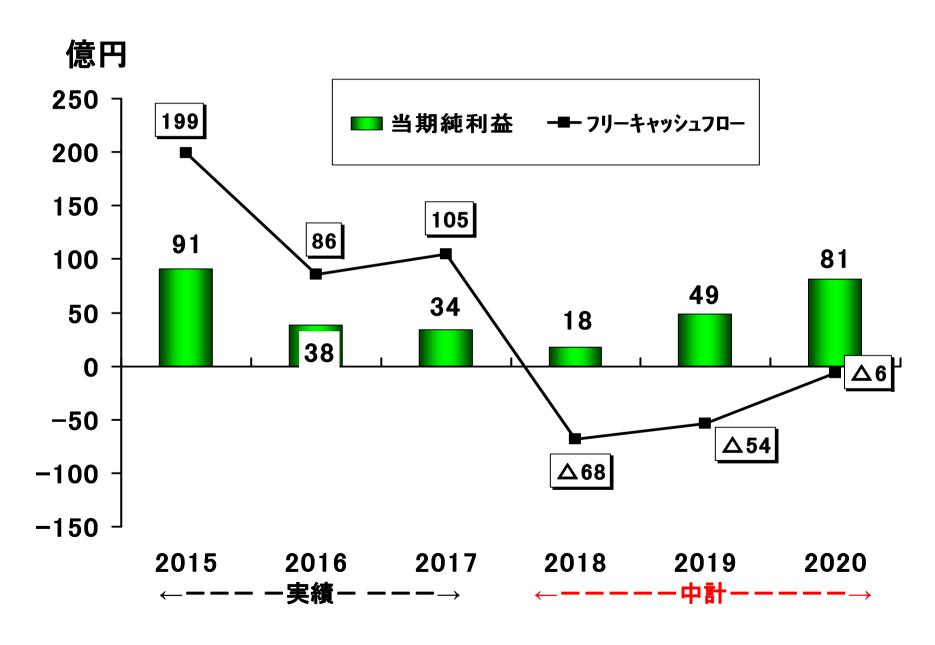




## IV. その他主要計数

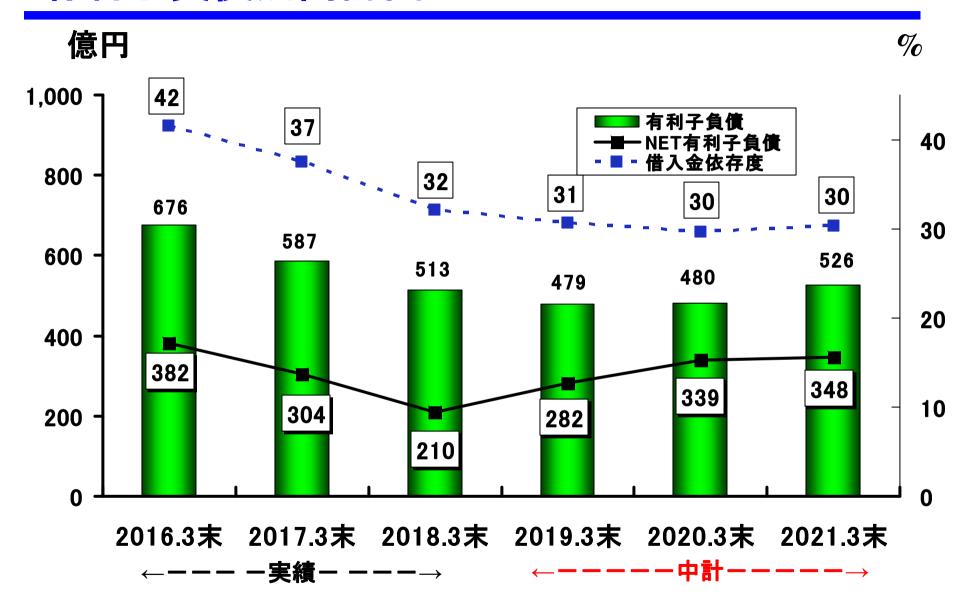
## フリーキャッシュフロー計画





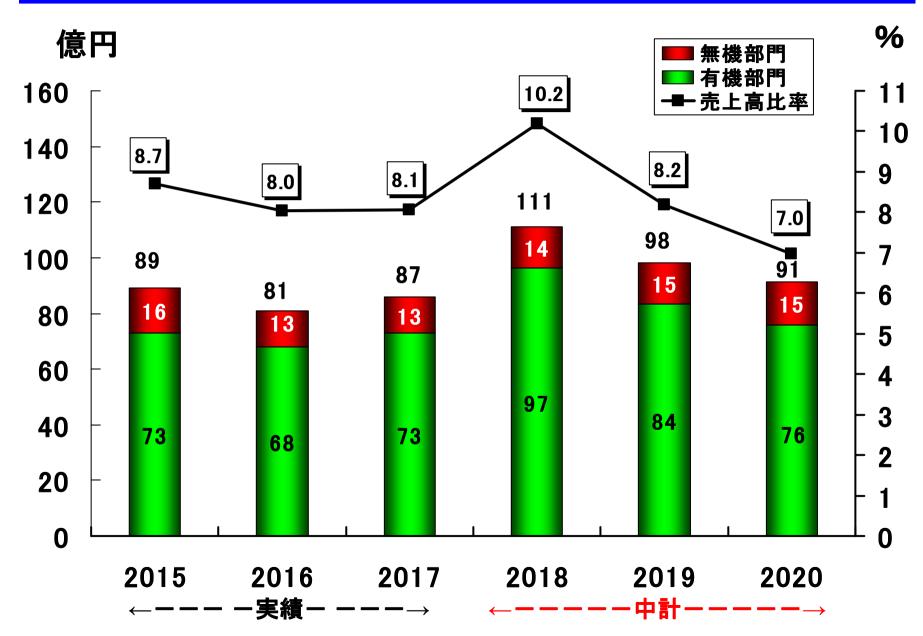
### 有利子負債残高計画





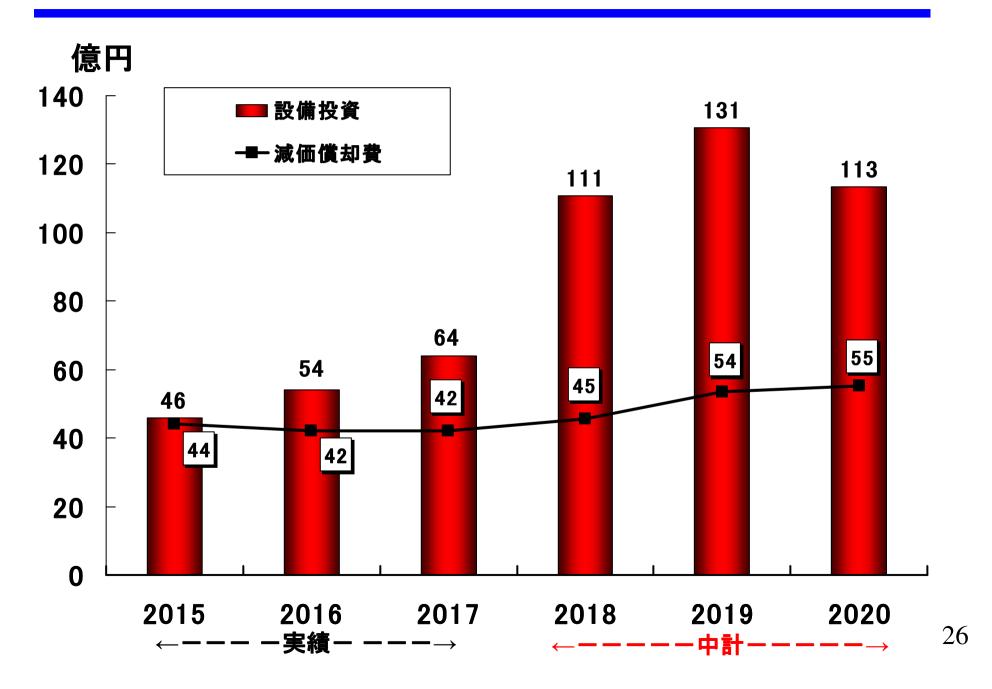
### 研究開発費計画





## 設備投資•減価償却費計画







# 完